

特定非営利活動法人
場とつながりの研究センター

2024 年度 事業報告書

2024 年 8 月 1 日から 2025 年 7 月 31 日まで

まちに笑顔が増える、
「場」と「つながり」をつくる



〒669-1533 兵庫県三田市三田町 29-14 (旧ヨネダ洋品店)

Tel 079-553-2521

Email info@batotsunagari.net

HP <https://batotsunagari.net>

※定款と各事業の位置づけ

①市民活動や運営に関する相談事業	相談支援、組織基盤支援、認定NPO取得支援、 基盤強化のための伴走支援モデル構築事業
②市民活動に資する ネットワーク形成事業	交流会開催(読書カフェ)、子ども支援者連絡会、 三田NPO連絡協議会、裏六甲子ども居場所ネットワーク
③市民活動に資する人材育成事業	自主／委託セミナー開催、講師派遣、中堅スタッフ育成、 子ども支援者研修会
④市民活動に資する情報発信事業	情報誌発行、活動取材・ウェブ発信
⑤まちづくりに資する地域情報化事業	オンライン支援
⑥まちづくりに資する コーディネーション事業	北神日本語教室、外国人アウトリーチ支援、仕事のための日本語、 食材拠点整備、、食料配布と相談支援、居住支援、 学生のまちづくり支援
⑦まちづくりに資する 子ども・若者支援事業	三田まちの寺子屋「まなびあ」、サタデースクール、北神まなびあ、 こども食堂3種、長尾児童館支援、ひきこもりオンライン居場所、 若者SNS、困窮状態にある子どものいる世帯への食支援
⑧前各号に掲げる事業に関する 調査研究事業	市民調査支援、居場所研究会、ユースワーク研究会、 NPO評価研究会

2024年度全体を振り返って

本年度も引き続き、専従のコーディネーターを中心にボランティアの参画を促しながらプロジェクトに取り組む事業チーム制でプロジェクトに取り組んだ1年となりました。特に、子ども・若者・家族まるごと支援チームは、神戸市北区道場町にある「蔵ハウス」を新たな拠点としてプロジェクトを実施したことで、利用者にとって「居場所」となる場所に育ちつつあります。

いずれのチームでも「孤立状態にある人に、どのように出会えるか」という点が共通しており、アウトリーチ的手法を使って「出会い方」を模索してきました。同時に、私たちが大切にしている価値の一つである「当事者の声を聴くこと」、「自己決定支援の原則」や「支援－被支援の関係を固定化させない(役割シャッフルが生まれる)場づくり」などに基づき、利用者がさまざまな出会いや体験を通してエンパワメントされ、自身が主体的になっていくようなプログラムづくりにも取り組んできたことで、多様な「参加支援」の実践が積み重ねられてきているように感じます。特に、神戸市北区北神地域では、行政－社協－地域(児童館・民生委員など)と連携しながら支援する取り組みが始まるなど、中間支援組織として多様なセクターや地域に働きかけていくケースも生まれました。

最近取り上げられる「孤立・孤独」一特に、10-30代の若者世代の孤立・孤独問題が指摘されている一問題に対し、市民活動だからこそできる可能性があります。例えば、趣味や楽しみをベースに集まるような活動も、共通のキーワードでゆるやかにつながりを持ち続けることでその人の孤立・孤独を予防しているという側面があります。「市民活動・NPOは社会参加の器である」という視点のもと、参加者一人ひとりを大切に、多様な参加と役割のある居場所創出支援に取り組んできました。現場で出会った人の声を丁寧に聴き、声を出せずに苦しんでいる当事者が安心して関わるができる「まちのセーフティーネット」を市民目線で作っていく取り組みを、これからも続けていきます。

なお、アウトリーチの実践を積み重ねてきた在住外国人支援チームが、2025年4月より新規団体「HANS Tree」として独立し、出発しました。今後も、外国人支援に関する相談があったときは、新団体と連携して支援にあたります。

NPO支援事業

まちづくり ネットワーク支援事業

なにか社会に役立つことをしたいと考える「意欲する人」たちの立ち上げや、活動の継続を目指した相談支援に取り組んでいます。

【主な予算】
自主／ひょうごボラン
タリー基金助成

【2024年度の活動内容】

市民の「やりたい！」を支援する人材インキュベーション事業として、企画づくりや団体の立ち上げ・運営支援を行いました。運営組織体制づくりのサポートにも取り組んでいます。

事業企画の立案や継続、運営体制のあり方についてのアドバイス、NPO関連の制度や事例、助成金等の情報提供、広報の相談支援、人材のコーディネートを実施しました。

【2025年度に向けて】

社会課題の実態を相談者とともに具体化することで、ニーズの「見える化」をサポートします。同時に、「本人が気づく」コミュニケーションを行うことで、プロジェクトの継続的発展をサポートします。

また、NPO法人の解散に関する相談も今後も増えていくことが予想されており、支援にあたります。

【主な相談内容】

- 団体立ち上げ・解散相談
 - ・非営利法人設立支援：2団体
 - ・子ども食堂立ち上げ支援：2団体
- 団体の継続的な運営に向けた相談
 - ・子ども食堂・学習支援・居場所の運営相談支援
 - ・会計についての相談支援
 - ・広報についての相談支援
 - ・個人情報保護法やフリーランス新法など、昨今の制度への対応に関する相談支援
- ファンドレイジングに関する相談
 - ・助成金の相談支援
 - ・寄付募集に関する相談支援
- 組織内人材育成に関する相談
 - ・中間支援組織としての人材育成支援
 - ・リーダーの引き継ぎ支援支援
- まちの活性化についての相談

当法人の専門性を活かし、NPOが苦手とする会計や事務支援のサポートに取り組み、組織や活動の活性化を支援します。

【主な予算】
自主(業務委託・講師派遣)

【2024年度の活動内容】

認定NPO取得及び継続のための基盤整備支援や、専門家派遣、会計や事務業務の受託などに取り組んでいます。委託料・講師料から人件費や管理費を捻出できており、法人にとって大切な業務です。

認定NPO法人を目指したいと、フリースクールを運営している大阪府のNPOからサポート依頼をいただきました。2021年度に、コロナ禍・学校休校時における子どもの居場所運営団体の取り組みについて取材をした際のご縁を覚えており、声をかけてくださりました。

【2025年度に向けて】

継続的なコミュニケーションを取り、伴走型での支援に取り組めます。支援メニューが見える化し、声をかけてもらえやすくなるような工夫を目指します。

当法人の運営が苦しいときに仕事をいただいたご縁を忘れず、取り組みます。

【主な支援メニュー】

- (認定)まなびと
／認定継続支援、マネジメント支援、放課後児童クラブの運営支援
- (特活)ろーたす【新】
／認定NPO取得支援、組織基盤整備支援
- (特活)地域社会の健康を支援する会
／子ども食堂運営への支援
- (公財)ひょうごコミュニティ財団
／神戸市認定NPO取得支援事業への専門家派遣
- (公財)非営利組織評価センター
／グッドガバナンス評価への評価委員派遣(2025年3月まで)
- (特活)三田市手をつなぐ育成会
／会計事務および請求事務全般
- (特活)歴史文化財ネットワークさんだ
／会計事務
- さんだ楽語協会
／事務全般の支援

市民活動が孤立・孤独問題の解消に重要な役割を果たしている前提のもと、このような活動の支援方法について検討します。

【主な予算】
NPO法人市民ネット
すいた（講師派遣）

【2024年度の活動内容】

吹田・箕面・豊中・池田・茨木・高槻の中間支援団体と連携し、「北摂ともにプロジェクト」として取り組みました。

本年度は、複数の支援センタースタッフ混合チームによる、小規模団体への「伴走支援」におけるスーパーバイザー（SV）として参画しました。「相談支援の支援」を行うことで中間支援団体の人材育成に貢献するとともに、言葉が先行する「伴走支援のあり方」に対して、実践を通じた提言を行いました。

【2025年度に向けて】

引き続き主催団体が内閣府事業として採択されたことを承け、本年度も伴走支援のSVとして参画します。特に、伴走支援を通じた団体支援および中間支援スタッフの人材育成のモデル化を目指し、研修企画から相談支援の現場への同行まで含めたサポートに取り組みます。

【SVとして参加した支援先団体】

☆（特活）スポイの会（池田市）

在住外国人を対象とした地域食堂や地域日本語教室に取り組むも、民間財団の助成金が上限年数で打ち切られることから、事業継続のサポートに入りました。ミッション見直しのサポートを行い、市内の外国人支援団体のネットワークづくりに注力する旨を確認しました。

☆（特活）友-友（吹田市）

独居老人宅等への配食サービスに長年取り組むも、市が補助を打ち切ったため、事業や組織を継続するかどうかの意思決定のサポートに入りました。新たな地域助け合い活動をはじめめるにあたってのサポートにも取り組みました。

☆こらぼれひろば（吹田市）

子育てひろばの運営に長年取り組む団体が、市の施策変更の影響を次年度に受けることに備えて、新たなマネジメント体制づくりに向けたサポートを行いました。

伴走支援モデル事業（2024 → 2025）

「伴走支援」の必要性がNPO支援の際によく言われるようになりました。しかし、伴走の意味を「継続的に関わる」ことにとどめず、意義をより深め、支援手法を整理していく必要があります。伴走支援にスーパーバイザー（SV）として関わることで、現場における相談支援力の向上に加え、振り返りを通して「自律的なチームをつくる」方法をモデル化できるように取り組んでいます。

【SVの役割】

①アセスメントのサポート

右図のような関係性を整理し、それぞれのアセスメントの方法と注意点をサポートしました。

②気づきによる振り返りの促進

支援での気づきをより効果的な次の支援につなげるために、支援後の「振り返り」の場の作り方についてサポートをしました。

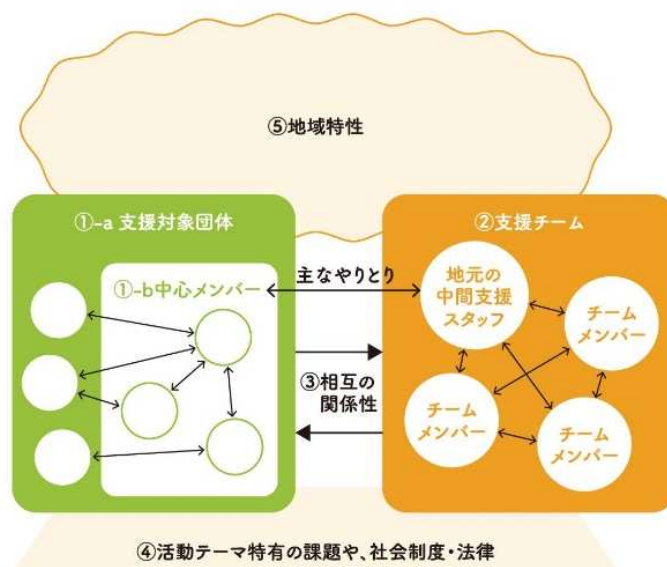
③中間支援の意義の問い直し

「社会の翻訳家」としての中間支援の意義をスタッフ自身が問い直し、場あてり的な対応に終始しない支援のあり方について問いを投げかけました。

相手の表情の変化など、対話に集中するあまりに見落していたことに気づきました

対話であまり注視していなかった部分に意識を持つことができました

話された言葉の意味を立ち止まって問い直す必要性を感じました



【出典】NPO法人市民ネットすいた（2025）「生活圏域における小規模NPO基盤境界線を通じた緩やかな「つながり」づくり担い手育成事業 報告書」 pp.32-35 寄稿より

講師派遣・人材育成

【担当】大島・本田

これまでの経験値を活かし、様々な団体の研修に講師を派遣しています。
講演に加え、ワークショップなどまなびあいの研修も実施しています。

【主な予算】
自主(業務委託・講師派遣)

【2024年度の活動内容】

「居場所」や「子ども食堂」をテーマとした講演に加え、NPOマネジメントに関する研修依頼をいただきました。講座企画は、本年度は実施しませんでした。

【2025年度に向けて】

「市民調査」、「資金調達」、「対話」の専門性を活かした事業展開を考えます。何かに取り組みたいという人たちのきっかけの一つとしての講座企画の可能性を考えていきます。

実施日	タイトル・テーマ	主催団体	派遣者
2024年9月13日(金)	「チラシ作りの伝えるコツ」(スタッフ内部研修)	(一社)兵庫県こども会連合会	大島
2024年9月15日(土)	「多文化共生塾」事例提供者	(公財)かめのり財団	本田
2024年9月18日(水)	ひきこもり者親の会「楽に」ゲストスピーカー	(社福)三田市社会福祉協議会	大島
2024年10月23日(月)	「NPO・NGO論」ゲストスピーカー 出会い、つながり、事(コト)が動き出す「場」をつくる～ゆるやかなネットワークによるまちづくり支援活動の事例を通して	甲南大学文学部 帯谷博明研究室	大島
2024年11月24日(日)	子どもの貧困を正しく理解する	日本キリスト教団 摂津三田教会	大島
2025年3月14日(金)	市民公益活動のための資金調達講座	(特活)市民ネットすいた	大島

まちの読書カフェ

【担当】大島

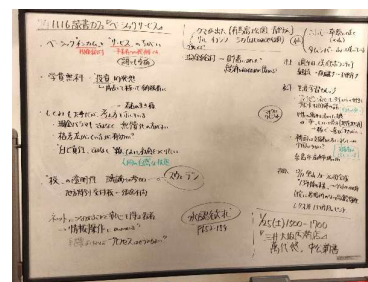
「読書」をキーワードに、人と人がゆるやかにつながる交流会を隔月開催しています。

【主な予算】
自主事業

【2024年度の活動内容】

今期も毎月奇数月に定期的に開催しました(15:00-17:00、ほんまち交流館「縁」にて)。

毎回参加される30代～70代の方を中心に、書籍案を参加者から提案いただくなど、参加型の読書会で運営しています。お互いが顔見知りになっていることもあって、助け合いなどの相互コミュニケーションが活発に行われています。



板書メモの様子

回	実施日	書籍情報
70	2024年9月21日(土)	玉野和志(2024)『町内会～コミュニティからみる日本近代』、ちくま新書
71	2024年11月16日(土)	井手英策(2024)『ベーシックサービス ～「貯蓄ゼロでも不安ゼロ」の社会』、小学館新書
72	2025年1月25日(土)	萬代悠(2024)『三井大坂両替店』、中公新書
73	2025年3月29日(土)	秋谷りんこ(2024)『ナースの卯月に見えるもの』、文春文庫
74	2025年5月24日(土)	ダレル・ハフ(1968)『統計でウソをつく法』、講談社ブルーバックス
75	2025年7月19日(土)	西加奈子(2009)『通天閣』、ちくま文庫

地域イベントへの参加

【担当】大島・佐藤
長谷川

事務所のある三田本町通りや三田小学校区で行われる企画に参加・協力して、地域活性化に貢献する取り組みを行います。

【主な予算】
自主事業

【2024年度の活動内容】

○ほんまち商店街DE夏祭り(主催:(特活)Metus)
2024年8月17日(土)の晩開催のイベントに協力し、事務所前のスペースでわた菓子を作りました。

○だんじり

2024年10月7日(日)、三田天満神社例大祭に合わせて運行される本町地区のだんじりに参加しました。

○七ようまつり

2024年11月9日(土)、三田小学校校庭で開催の「しちようまつり」にわた菓子コーナー・的あてコーナーとして出店し、地域団体と交流を深めました。子どもたちがわた菓子を自分で作る運営としました。

当法人のボランティアに加え、子どもたちも担い手として参加しました。地域の祭りなど、子ども・大人にとっての楽しみの場が少なくなりつつある今だからこそ、他団体と連携して企画づくりを検討していきたいと考えています。



裏六甲子どもの居場所支援ネットワーク

【担当】大島・島津

裏六甲エリア(三田市・神戸市北区・西宮市北部ほか)の子ども・若者支援団体の、ゆるやかなつながりづくりに取り組んでいます。

【主な予算】
自主事業

【2024年度の活動内容】

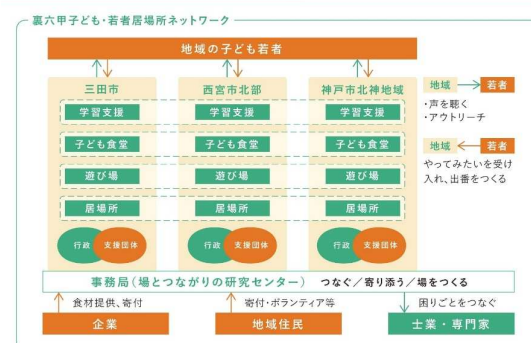
裏六甲エリアの地域課題を共有し検討するとともに、食糧集積や広報、ボランティア人材の「発掘」や専門家資源の共通利用、研修などを相互に取り組み、助け合える仲間づくりを目的として、2021年度より取り組んでいます。

本年度は、コミュニティパントリー創設事業と合わせて、企業から提供いただいた食材の地域循環を目指す取り組みを中心に行いました。交流会などつながりづくりの取り組みは実施できませんでした。

【主な取り組み】

- 公式LINE「裏六甲子ども支援ネット」による情報発信(地域イベントや助成金情報、食材情報などを不定期に配信)
- 食材の共同調達・共同利用の取り組み
- 吉野家(176号線三田店)から月1回の牛丼弁当の無償提供。緑が丘学遊の森、フラワータウンの子ども支援団体&保護司会、西宮市上山口東自治会(2025年12月まで)と共同利用

裏六甲子ども・若者居場所ネットワークのイメージ



【2025年度に向けて】

公式LINEにおける情報発信を引き続き行います。また、多様化する「居場所」の在り方を考える学習会を行うとともに、前年度に開催できなかった「圏域ネットワーク交流会」にも取り組みたいと考えています。

地域の「もったいない」が集まり、必要な人に届ける拠点としての食料倉庫「さんだコミュニティパントリー」を作ります。

【主な予算】
自主事業(三田じばやん
倶楽部と連携)

【2024年度の活動内容】

三田食糧精米工場(休業中)の精米所をお借りし、地域の支援性食材拠点となるコミュニティパントリーを、2023年度に立ち上げました。同時に、企業からの管理期限後食材/梱包破損商品や、市民農園等からの余剰生産商品、市民からの寄贈食材を受け入れる倉庫として、運用しています。

【2025年度に向けて】

運搬委託や倉庫整理などにかかる経費をまかなうための仕組みづくりに取り組みます。2024年度は受取団体に寄付をお願いする方式でしたが、2025年度は会員制を想定しながら「お客様化」しないよう、当事者性をお互いに持ちながら取り組める仕組みを検討します。

また、新年度から始まる「参加支援事業」に関連して、ひきこもり等の当事者の社会参加事業の拠点の一つとしても検討しています。

【主な取り組み】

- ・(株)アイリスオーヤマ三田工場より食材を受贈(三田市民連携推進課と協働)。毎月1回実施。就労継続支援B型事業所「作業所ゆう」に運搬を委託。
- ・マックスバリュ三田三輪店・マルナカ三田店より、食材を受贈(三田市民連携推進課と協働)。隔月実施。
- ・裏六甲子ども支援ネット登録グループに情報発信し、食材を提供



資金不足に課題をもつ子ども食堂やフードパントリー団体と連携し、共同で助成・寄付を集め、それぞれの活動現場の活性化をサポートします。

【主な予算】
NPO法人いるか
(こども家庭庁)助成事業

【2024年度の活動内容】

子ども食堂やフードパントリーにおける食材費購入支援を主な目的とした助成金を、裏六甲子ども支援ネットワークで受けられるよう、当法人が代表して申請し採択。ネットワークに声かけ、2024年7月～12月の約6ヶ月、三田市・神戸市北区北神地域・西宮市北部・丹波篠山市で活動する17箇所の子どもの食堂、6箇所のフードパントリー、2箇所の緊急用アウトリーチ支援の計25プロジェクトで活用しました。

人件費付帯の助成金でしたが、食材購入費の15%を上限とする仕様のため、助成額以上に事務局コストが多くかかった印象です。しかし、地域の小規模団体にとっては貴重な機会であり、中間支援団体としての役割は果たせたものと考えています。

【2025年度に向けて】

別団体が中間法人となった助成事業に申請したものの、残念ながら落選してしまいました。引き続き、関連事業への申請を検討します。

【子ども食堂・居場所づくり活動】計119回開催

- ①まかないキッチン
- ②チャレンジキッチン
- ③ファストキッチン
- ④じばやんこども食堂・あそびのひろば
- ⑤いこいの家 子どもの食堂
- ⑥緑ヶ丘学遊の森
- ⑦上山口東こども食堂「みんなあつまれ」
- ⑧こども食堂むすびより
- ⑨ゆるっとサポート(フラワータウン&保護司)
- ⑩ゆりのき食堂
- ⑪にじいろカフェ
- ⑫こども食堂まんぷく
- ⑬高平ダイニング
- ⑭あかしあつこども食堂
- ⑮つつじヶ丘あい子どもサロン
- ⑯三輪小学校区まちづくり協議会 冬休み子ども料理教室
- ⑰にちようたまりば

【フードパントリーの開催】延べ59回開催分

- ①子育て世帯向け食料配布・北神つながりプロジェクト
- ②子育て外国人向け食料配布アウトリーチ
- ③困窮する若者&子育て世帯向け食料配送
- ④西宮山口フードパントリー
- ⑤三田/緊急子どもフードパントリー
- ⑥ささっコスマイル便

☆支援対象者 合計8,901人
☆食材購入費 合計2,509,798円

縁あって三田で暮らしている高校生・大学生・専門学校生の孤立防止と、地域活動やボランティア活動など社会参加の促進を支援しています。

【主な予算】
自主事業

【2024年度の活動内容】

関西学院大学の学生を中心に、NPOインターンシップの受け入れや、地域課題に取り組む学生の調査研究の支援、三田に縁のあった学生の地域活動への参加支援、学生サークルの運営相談などに取り組みました。

また、学生の生活不安などの相談支援にも取り組み、必要に応じて寄贈食材を提供するなどしました。

【2025年度に向けて】

学生自身に「体験」の機会を提供するだけでなく、自身が企画立案から振り返りまで行うプログラムづくりを、より積極的に推進していきます。

今後、高校の探究学習に関連して、地域課題やNPOに関心を持つ高校生が増えていくことが予想されます。市内の高校と連携し、当法人だけでなく地域ネットワークで子どもたちのまなびを支えていくことができるような取り組みを検討します。

【主な取り組み】

- ・（特活）ドットジェイピーの「ソーシャル・インターンシップ(NPO・NGO)」に協力、学生を受け入れ。
 - 2024年8月～9月、1名
 - 2025年2月～3月、2名
- ・ 三田市役所協働推進課より、「市役所インターンシップ」におけるNPOと行政の連携についての事例紹介に協力。
(2024年8月22日)
- ・ 関西学院大学経済学部小川禎友ゼミのヒアリングに対応(2024年9月9日)
- ・ 学生サークルの運営相談支援



物価高の影響などで生活にお困りの神戸市民への食料品等の無償配布 & 生活相談会を開催しています。

【主な予算】
神戸市くらし支援課
補助事業

【2024年度の活動内容】

事業を通じて地域の支援者とながり、北神区役所担当課や社会福祉協議会とも連携して事業を行うことで、それぞれの強みを活かした支援体制を構築することができました。その結果、困りごとを抱えた方へ多様な視点に基づくサポート体制が取れるようになり、北神地域の総合的なネットワークの土台となるものができたのではないかと考えています。

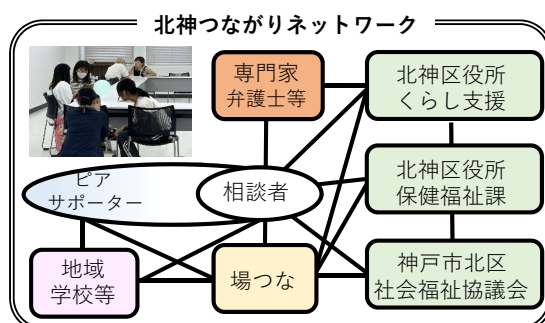
ボランティアの人材育成として、事業実施前後にケース会議を行っています。

【実施概要】

- ・実施日：毎月1回(主に第3土曜日)
別途個別対応
- ・実施場所：北神区役所、アウトリーチ、他
- ・参加者数：毎回約30世帯
(事前申込により優先度の高い世帯)
- ・ボランティア数：12人
- ・参加者層の特徴など：
生活(経済・心因的)に課題を抱えている人

【2025年度に向けて】

地域の地縁団体や学校等とも連携し、支援のネットワークづくりに取り組んでいます。地域の意欲ある多様な団体・人と今後もいっそう出会い、ネットワークに参加してもらうことで、多様な力が混ざり合うネットワークの構築に取り組めます。



在住外国人支援事業

在住外国人支援活動の経緯

裏六甲エリアは工場や流通センターなど事業所も多くある地域で、かつ、市街地から離れており地価が安く、公営住宅やUR住宅も多いため、この地域に住み、働いている在住外国人が多くいます。近年、製造業に加え、福祉や農業、飲食業等の分野での人手不足も顕著で、事業を維持していくために外国人に頼らざるを得ない背景もあり、在住外国人がいっそう急増しています。

一方で、在住外国人のくらしを支える仕組みや社会資源がこのエリアには不十分でした。そのため、在住外国人の支援活動に関心ある人が集まるための場づくりとして、ボランティア養成講座(神戸市北区助成)を2019年10月に実施。受講した多くのボランティアとともに、地域日本語教室「北神日本語教室」を12月に立ち上げました。

地域日本語教室は「生活日本語を教える」だけにとどまりません。外国人にとっては気軽に相談できる「良き隣人」となる日本人と安心してつながれる場であり、日本人ボランティアにとっても、「在住外国人のリアル」を知り、自身が住む自治会や地域福祉活動等に発信・啓発する拠点でもあります。北神日本語教室に加え、話を聞きつけた在住外国人から「多様な困りごと」が寄せられるようになり、神戸市北区・西宮市北部・三田市を中心とした生活圏が共有している3市を中心に地域に暮らす外国人の生活支援にも取り組むようになりました(休眠預金や赤い羽根共同募金の助成金を活用)。

つながりから見えた困りごとを、地域ぐるみで支える体制づくりへ

この5年の取り組みで、外国人住民と顔の見える関係を築き、彼らの「困りごと」に伴走して支援することができました。しかし、彼らの困りごとに対してNPO単体でできることは限られているため、各地域の行政機関との連携・協働が必要ですが、支援体制の構築には至りませんでした。

一つは、自治体内で「生活者としての外国人支援」に取り組む部署がはっきりしていない、もしくは外国人を支援対象としてはっきりと位置づけていない面があります。これまでの外国人支援は、交流や留学など短期的取り組みが中心でしたが、生活者としての外国人住民がこれほど増えた現在は「まちづくり」として中長期的視点が必要となるため、まちづくり部局や生活福祉・教育部局が責任を持って取り組む必要があります。

加えて、行政の課題認識が追いついていない現状もあります。NPOに限らず、就労先の事業所や(子どもがいる場合は)学校なども、課題に向き合うパートナーです。行政機関だけでなく、外国人住民に関わる多様なセクターが「困りごと」を真ん中にして集い、課題解決に向けた支援ができる体制づくりが、次の目標です。

生活日本語支援活動を通して、外国人住民ならびに日本語ボランティアがお互いを知り、学び、育ちあう活動です。

【主な予算】
神戸国際コミュニティ
センター(KICC)助成

【2024年度の活動内容】

6年目を迎えた北神日本語教室は、新規参加の6人を含む、18人(延べ241人)の在住外国人が2024年度参加しました(毎回平均13名程度)。

教室が手狭になるほど多くの参加があり、活発な活動ができています。日本語能力試験にチャレンジする学習者もあり、2名が合格しました。

日本語ボランティアも個々に研鑽をし、活動に意欲的に取り組んでいます。中には、日本語教師の資格取得を目指し勉強する日本語ボランティアも出てきました。

【実施概要】

- ・実施日:毎週水曜日 18:30~20:00
- ・実施場所:北神文化センター
- ・参加者数:18人
- ・ボランティア数:16人
(うち日本語教師資格保有者5名)
- ・参加者層の特徴: 神戸市内とくに北区で働く外国人や、家族帯同で来日した中学生や高校生が参加しています。



【備考】 2025年4月より、新団体「HANS tree」に事業承継し、新たに展開している。

【2025年度に向けて】

毎回の活動以外にも、地域団体の協力のもと郊外活動などを企画し、日本語教室で学んだ日本語を使い、発揮できる場づくりにも取り組んでいます。また、日本語教室への参加の問い合わせが相次いでおり、外国人の流入が想像以上に増えているを実感しています。

☆北神日本語教室の6年半を振り返って☆

【立ち上げ時の思いと社会状況】

北区に外国人が働きに来ているのを察し、日本語教室の必要性を感じ2019年12月に立ち上げた。当時、北神地域の外国人数は800人程度であったが現在は1100人程度になっている。また観光や介護、製造業関連で就労する外国人も増えているが、日本語支援をできる体制が事業所にないため、問い合わせが多い。

【ボランティアより】

日本語ボランティアに参加して5年目になります。日本語を教えるだけでなく、外国人の人の価値観や文化に触れることができ、自分自身の勉強になっています。自分がどれだけ役に立っているかわかりませんが、協力したいです。



【これからの展望】

生活者としてみたときに外国人住民は今後も増え続けるが、日本語支援も幅広いものが必要になってくると考えている。併せて、呼び寄せで来る外国人女性や子どもたちの支援をできるような取り組みも重要。そのためにも、収益事業等ができる体制と拠点の確保を目指して、行政と協力し、共生社会を創っていききたい。

【学習者より】

仕事で日本に来ました。生活する中で、日本語が必要なことを感じて、北神日本語教室に参加しています。日本語の先生は、丁寧に日本語を教えてください。私は、日本語を話すことができうれしいです。これからも頑張ります。



生活相談や就労支援、地域情報等の情報発信を通して、在住外国人のくらしを支援する活動です。

【主な予算】
赤い羽根共同募金
「外国ルーツの活動支援」
事業助成

【2024年度の活動内容】

年間50件の相談件数と、情報紙「つながり」の送付先を新規3法人獲得することを目標に活動をしてきました。

相談は61件あり、就労支援も2件対応しました。中には、市営住宅への入居および居住支援を三田市から要請されることが数回ありました。小学校での保護者支援(通訳)も4件実施しました。

情報紙希望が新たに2法人ありました。

これらの実績を通じて、市立三田幼稚園の職員研修の講師も行いました。

●健康相談会の開催

岡場の「エコール・リラ」の協力により、ショッピングセンター内での健康相談会を実施しました。

ベトナム、インドネシア出身者を中心に、18名が参加しました。日頃の健康状況を看護師に相談することができ、満足して帰っていきました。

●多言語情報紙「つながり」の発行

神戸市北区、三田市、西宮市北部地域の25事業所に郵送や手配りをし、外国人住民への情報提供を行った。また、近隣の外国人支援をする24団体にも送付しました。

また、情報紙を見て問い合わせや相談をしてくるケースもありました。



☆「つながり」の主なトピック

- 24年9月号 水難事故への注意喚起と対策
- 24年11月号 外国料理店のオーナーの紹介
- 25年1月号 インフルエンザ対策(手洗いの仕方)
- 25年3月号 小学校での学用品、準備物の紹介
- 25年5月号 人と自然の博物館紹介
- 25年7月号 事業所における外国人就労の取組

【備考】 本事業は2025年9月まで実施。以降、新団体「HANS tree」が継続して相談支援を行い、当法人と連携して支援に取り組む。

アウトリーチ支援から見えてきたこと

【なぜ「アウトリーチ支援」が必要なのか？】

外国人住民にとって「困りごとの相談をする相手」の多くは知人であるが、地域が異なると地域情報や制度が異なるため、相談対応も変わります。また、交通が不便な地域ゆえに、拠点型の相談場所には来ることができない人も多いです。

そのため、当事者にとってより身近な場所で相談を行うことで、課題やニーズを把握し、行政等の資源につなぐとともに、事業化できるよう働きかける必要があると考えます。

【外国人支援にこれから必要なことの視点】

外国人の相談対応に際して、多様な考え方や文化、価値観を尊重することが大前提として求められます。同時に、日本で暮らす以上、必要な「日本社会の決まりごと」を伝えていくことも重要です。双方の無知をきっかけとした不要なトラブルを招かないために、「同化」を求めるものではない支援が必要です。

また、母国から呼び寄せられた家族が増えていることから、日本語が不十分な親や子どもたちへの支援が急がれます。そのため、外国人の生活につながる各種行政機関や学校、専門家などと連携して取り組むことが、今後いっそう求められると考えています。

【相談支援の実績】

- ・日本語学習 12件
- ・教育 10件
- ・住居 10件
- ・子育て 9件
- ・翻訳通訳 8件(他市や社協等からの依頼)
- ・医療 6件
- ・就労 2件
- ・その他(学校からの依頼等) 4件

就労支援をした人の例

結婚、出産を経て「就労したい」とSNSで相談してこられた事例です。

相談者のもとへ出向いて話を聞き、子どもの保育園入園の必要性への理解や就労意欲を確認しました。本人の長所や移動手段などを参考に就労先をいくつか紹介し、履歴書を作成、自力で出向いて面接をし、就労が決まりました。

その後、「雇用先から身元保証のための書類を求められた」との相談がありました。雇用先に内容を確認し、出入国在留管理庁に問い合わせを行うなどして、書類を提出することができ、無事に雇用され、現在、一生懸命働いています。

丁寧にお礼の挨拶に来るなど、支援をしたことに対し恩義を持ってくれており、支援者として非常にうれしく感じました。

子ども・若者 家族まるごと支援事業

子ども・若者・家族まるごと支援の経緯

ボランティア活動で出会った定時制高校生徒の「勉強したい」というつぶやきをきっかけに、学習支援・子ども食堂をはじめとした「子ども・若者の居場所創出事業」に、2013年度から取り組んできました。出会った子どもに応じたオーダーメイドの支援を心がけ、居場所づくりも年々アップデートを続けてきました。

コロナ禍を経て「小さくとも、多様な居場所をまちに増やす」ことの重要性を感じ、裏六甲エリアにおける子ども・若者の居場所づくりの支援と、子ども・若者支援に関心ある人同士が行政区域を超えてゆるやかにつながるネットワークづくりに取り組みました（休眠預金助成事業）。同時に、子ども・若者を支援するには「親や家族」の支援も必要と考え、支援の枠を広げて取り組んでいます。

困っている「家族」を真ん中においた、支援者連携のモデルづくり

2024年度は、組織を超えた連携体制で支援に取り組んだ実践例が積み上がってきました。

当法人は神戸市北区北神地域で、子育て世帯向け／困窮世帯向けに食料配布と相談支援を行う事業に取り組んでいます（神戸市補助事業）。ここで出会った家族の困りごとをお聞きする中で、他の支援機関と連携した支援が必要と考え、行政（北神区くらし支援窓口）とコミュニケーションを密に取って対応してきました。加えて、社協や地域（児童館・民生委員など）もその家族と出会っていることから、みんなが一つのテーブルに集まりそれぞれの立場から見えている家族の情報を共有しました。すると、家族の「解像度」が高まるだけでなく、それぞれの組織の「強み」を相互に理解できたため、連携しながらそれぞれアプローチをかけたり、時には現場での活動と一緒に行動することで、新たな課題が浮き彫りになってくるなど、より丁寧な支援ができるようになりました。

「意欲する人」と出会える、多様な場づくりを

このように、「家族」を真ん中に置いて、関わる多様な人・組織がいっしょに／対等に支援のあり方を考える場づくりを仕掛けることは、中間支援としての大切な役割だと再認識しました。そのためには、何か役に立ちたいと思う「意欲する人たち」の存在が重要で、私たちはまだまだ出会えていないようにも思います。

支援者連携のモデルをより発展させていくために、そのような人たちと出会える場の作りかたの実践を積み重ねることが次の課題です。「たまたまの課題」発でできたネットワークを次のステップに高めていくことで、地域の課題解決へとつながるように取り組んでいきます。

三田まちの寺子屋「まなびあ」

【担当】大島・中嶋
SSV関西学院

子どもの声を聴き、寄り添いながら自分のやりたいことに取り組む居場所・サードプレイスとしての学習支援の場です。

【主な予算】
自主／三田市人権を
考える会 助成

【2024年度の活動内容】

今年度も多くの子どもたちの参加がありました。友達が友達を読んだの参加が多いですが、ゲーム機利用の子どもも多く、対面交流に誘導しています。

受験を控えた中学生が2人新規利用し、ボランティアによる学習支援を行ったところ、2人とも希望する高校を合格することができました。外国にルーツを持つきょうだいの参加もあります。

また、県外の居場所団体から、当エリアに引っ越しする新高校生の受け入れの問い合わせがあり、受け入れを行いました。「地域の居場所」として市内外にも定着してきました。

【実施概要】

地域の子どもの地域で支える仕組みづくりを目指し、生活困窮家庭・ひとり親家庭の子どもや不登校児者の学校外教育の提供を主な目的に、地域住民と協働で2013年8月に立ち上げ、13年目になりました。現在は利用制限を行うことなく、誰もが参加できるような運営方針で取り組んでいます。

日時： 毎週水曜日・金曜日15:30-18:30
(予約不要。いつ来ても帰ってもOK)

場所： 三田じばやん倶楽部

参加： 子ども 約10人／回
ボランティア 約5人／回

【2025年度に向けて】

中学生・高校生の利用促進を目指します。

「誰もが参加できること」と、「課題を抱えている子」や「居場所が必要な子」との両立をどのように達成するかが課題です。引き続き、誰もを排除することなくそれぞれが共存できる環境づくりを検討します。



北神まなびあ

【担当】大島・学習支援
ボランティア

経済的にしんどさを抱える家庭の子を対象とした無料学習支援です。「くらしとまなびの接続」を目指し、教科学習にとどまらない支援を行います。

【主な予算】
神戸市こども家庭局
補助事業

【2024年度の活動内容】

神戸市「学びへつなぐ地域型学習支援事業」の北区実施団体として、2023年7月より実施しています。現在、大学生からシニア世代までのボランティアが中学生に教科の勉強を教えるだけでなく、工作や意思決定ゲームなど対話をベースにしたワークショップにも取り組んでいます。

ボランティア募集サイト「activo」にページを作り、希望者を募っています。関西学院大学の学生や、地域のシニアボランティアが多く参加しています。

【実施概要】

日時： 毎週日曜日13:30-16:00

場所： 北神区文化センター、または、
デイサービス「サニーリハトレセンター」

参加： 子ども 約15人／回
(登録21人、25年7月以降 27人)
ボランティア約12人／回(登録35人)



【2025年度に向けて】

「勉強を教えたい」ボランティア希望者に、自己肯定感を十分に持てない子どもの現状を伝え、寄り添いの必要性を伝えながら活動に取り組んでいきます。

また、ボランティアの経験値が活きるような「学習」と「くらし」の接続を意識した取り組みを行います。



子ども食堂「まかないキッチン」

【担当】大島・大東・中嶋
SSV関西学院

「子どもたちが安心して思いを吐き出せる場を作る」ことを目的に、カレーやサラダ等を準備しています。地域住民から食材寄贈を多数いただいています。

【主な予算】
自主/フードバンク関西
(食材支援)

【2024年度の活動内容】

子どもたちの口コミで参加者が集まることに加え、三田小学校の協力・連携で気になる家庭の子どもにチラシを配ってもらっており、学校で見せる顔とは異なる様子で参加しています。食後には近くの公園で鬼ごっこするなど、活発に動いています。

調理担当のスタッフ4人、子どもの相手中心の学生ボランティア約15人など、それぞれの得意とする内容で活動に携わっています。終了後の振り返りを通して、小さな気づき・違和感を分かち合い、必要に応じて学校等と連携して対応しています。

【2025年度に向けて】

人数が増えることで、「子どもの声」を聞きにくくなっているおそれがあるため、1対1で話せる場面を意識的に作っていくように心がけます。

加えて、多機関連携のもと、声の届きにくい家庭にも情報が届くように声掛けしていきます。

【実施概要】

日時： 毎月最終金曜日18:00-20:00

場所： 三田じばやん倶楽部

参加： 子ども 約50人、高齢者約10人
ボランティア 約15人(各回参加者)

参加費： 子ども100円、大人200円



チャレンジキッチン・ファストキッチン

【担当】大島・大東・中嶋
SSV関西学院

その場にある食材を使い、子どもたちが自ら献立を考えて助け合いながら作る非構成的な料理教室を実施しています。

【主な予算】
自主/フードバンク関西
(食材支援)

【2024年度の活動内容】

子ども食堂が「作ってもらったものを食べるだけ」で終わりがちなため、自分たちが主体的に考え、調理に取り組めるような「子どもの食の自立支援」を目指した料理企画です。

チャレンジキッチンでは、大人の見守りのもと、子どもたちが役割分担し、時間をかけて調理に取り組めます。

ファストキッチンでは、(株)吉野家から提供いただく牛丼弁当への付け合せとなるサラダと味噌汁を、学生ボランティア見守りのもと、時間重視/即席で作っています。

【2025年度に向けて】

参加者の年齢が幅広くなっているため、個々に応じた目標設定と、調理が目的化しないよう目的の共有を丁寧に行います。また、大学生ボランティアのアイデアを生かした実践も行います。

【実施概要】

日時：[チャ]毎月第2土曜日15:30-19:30

[ファ]毎月第3水曜日17:15-19:15

場所： 三田じばやん倶楽部
(三田市三田町21-12)

参加： 子ども 約10人/回
ボランティア 約5人/回



普段まなびあに参加できない子たちが気軽に来れるよう、土休日に、学校外での体験活動の提供を目的に実施しています。

【主な予算】
自主/フードバンク関西
(食材支援)

【2024年度の活動内容】

子どもたちの想像力や感受性が活きるような、5教科の学習とは異なるまなびの場を作ってきました(これまでに約40企画を実施)。
学生ボランティアの「やってみたい」を企画化する支援を通して、担い手づくりにも貢献しており、今期は3つの企画に取り組みました。

【2025年度に向けて】

夏休み企画として「じばやんこどもなつまつり」を実施するなど、学生からの自発的な提案が続いており、継続して企画づくりに取り組みたいと考えています。
プログラミング企画は今年度できなかったもので、新年度には実践したいと考えています。

実施日	会場	タイトル・テーマ	企画者	人数
2024年8月10日(土) 10:00-14:00	三田市 総合福祉 保健センター	「大学生と自由研究 ～カップ ケーキはどうして膨らむの？」	野村	12人
2024年8月17日(土) 13:00-15:00	三田じばやん 倶楽部	「アイデアクラフトvol.2 ～押し花でトートバッグづくり」	古田	8人
2025年5月24日(土) 10:00-12:00	三田じばやん 倶楽部	「段ボールで避難所を作ろう」	山下	9人



物価高などの影響で生活に困窮する、神戸市内在住の若者に SNS等での相談支援を通じて、必要な支援へつなげています。

【主な予算】
神戸市福祉局くらし支援課
補助事業

【2024年度の活動内容】

公式LINEに登録した若者に情報を配信したり、チャット機能を活用した個別相談対応を行うことで、彼らに必要な支援の情報提供をしたり、気持ちを吐き出す場が持てない若者が気軽に思いを打ち明けることができる環境づくりに取り組んでいます。
経済的困窮を抱えている若者には、神戸市内で食料支援を行っている団体など、彼らの生活圏内にある居場所とつなぎました。加えて、専門講師による「SNS相談支援」研修会も実施しました。

【実施概要】

- ・実施日: 随時相談を受け付けています。
- ・実施場所:
公式LINE「きっとチャットKOBE」
- ・登録者数: 572人
- ・参加者層の特徴など
親に頼れない若者、孤独感を抱える若者

【2025年度に向けて】

神戸市内の若者支援活動を行っている、または関心のある団体同士のつながりが縦割り状況になっていると感じています。同じ方向を志す団体・人がつながり、そしてそのようなネットワークを構築し、SNSを入り口に地域の顔の見える支援先につなぐ体制づくりを目指したいと考えています。



ひきこもり状態にある人を対象としたオンライン居場所

【担当】島津、池辺

ひきこもり・不登校状態にある人を対象に、zoomを活用し、参加者同士で気軽に話ができる場を提供しています。

【主な予算】
兵庫県障害福祉課
委託事業

【2024年度の活動内容】

毎月1回、趣味や季節に応じたテーマを設けたオンライン居場所を開設しています。ファシリテーターを中心に、おしゃべりやチャットでコミュニケーションをとって進めています。毎回参加する参加者も少しずつ増えるようになり、参加者同士でも会話を投げかけ合う様子も見られるようになってきました。

時間はかかりましたが、丁寧に参加者と一緒に場を作る大切さを改めて感じました。

【2025年度に向けて】

参加者も一緒に作る場として、参加者も一緒に作っていけるオンライン上の成果物を作ったりもしていきたいと思います。

その中で、当事者の中から、この場を一緒に運営する人の発掘もしていきたいと考えてます。

【実施概要】

- ・実施日：月1回1時間
主に毎月第4月曜日17時-18時
2025年4月以降は20時-21時
- ・実施場所：オンライン
- ・参加者数：毎回約4～6人
- ・参加者層の特徴など
ひきこもり状態、または人と関わるのが苦手な人。県外からの参加も多いです。



子育て世帯への食を通じたつながり支援

【担当】島津・本田・
和田・原山・塗田・
いけママボランティア

生活が厳しい子育て世帯に対し、食品等の提供や相談支援を行うことで、気軽に相談できる関係を構築し、課題の早期発見・初期支援につなげます。

【主な予算】
神戸市こども家庭局
補助事業

【2024年度の活動内容】

2024年4月より神戸市北区塩田に拠点「蔵ハウス」を設けたことで、利用者・支援者・地域の方の居場所機能を持つことができるようになりました。

また、公式LINEを活用して配布会や支援情報を届けたり、チャット機能で個別に相談対応を行う取り組みを通して、顔の見える関係における「配布会」の場づくりと「SNS」とを組み合わせたハイブリッド型支援の成果が得られる実感を、その要因は地域密着型であるからこそその成果だと感じています。

【2025年度に向けて】

食支援事業も転換期を迎えているように思います。自主事業で取り組むSNSを活用した取り組みに一定の成果を感じており、本事業の中に取り入れてもらえるよう行政に提言していくとともに、支援者側（SNS相談）の育成も視野に入れて実施する必要があると考えています。

【実施概要】

- ・実施日：毎週水・木曜日 15:00-18:00
- ・実施場所：自然塾 蔵ハウス
(神戸市北道場町塩田)
- ・参加者数：毎週 約60世帯
公式LINE登録者 593人
- ・参加者層の特徴など
困りごと(経済的・心因的)を抱える
子育て世帯



その他取り組んだ事業

●働く人のための日本語講座（ひょうごボランティア基金助成事業）

外国人人材の受け入れが技能実習生から高度外国人材へと移りつつある中で、主に製造業を想定し、高度な日本語コミュニケーションスキルを習得するための日本語教室の必要性を鑑み、企画しました。講師選定も行い参加者募集をしたものの、参加者が実施可能人数を下回ったため、やむなく事業を中止しました。

●NPO評価研究（ひょうごボランティア基金助成事業）

「グッドガバナンス認証」をはじめNPOの評価指標の開発が行われていますが、多くが「〇〇があるかないか」などの指標となっており、団体の成長や人材育成との関連性が見えない点に問題意識がありました。本年度は、NPOにとっての「評価」とは？をテーマにNPO法人の評価の現状（組織評価、人材育成評価など）について、現状をお聞きし、整理しました。

●講演会「2030年の三田に求められる自治の進化」(共催)

2025年2月2日(日)、IIHOE(人と組織と地球のための国際研究所)の川北秀人さんをお招きし、三田市まちづくり協働センターで講演会を開催しました(主催: 三田市市民活動推進プラザ・梅澤豊和さん)。5年、10年後の未来への危機感を共有するとともに、市民活動として取り組むべき課題を共有した企画になりました。

●各種ネットワークの運営・参加

○三田NPO法人連絡協議会「えぬぴお」

市内に法人登記をするNPO法人が50弱あることを承け、新年度は新旧法人の顔合わせ・意見交換などが行える場づくりに取り組みます。

○兵庫子ども食堂ネットワーク

地域ネットワークづくりを促進する観点から、丹有(丹波・有馬地域)の世話役団体として拝命されました。具体的な活動はこれからになります。

●長尾児童館「子どもヘルパー支援」

神戸市北区長尾地区にある児童館が主催する、子どもの社会貢献プロジェクト「子どもヘルパー」の活動を、側面的に支援しています。大学生ボランティアの紹介をし、共に活動をしてきましたが、地理的な問題から学生の参加が遠のいており、今後の対応を考えています。

●Amazonほしいものリスト

法人として登録し、支援者からご寄附いただいたパック米やお菓子などを困窮世帯(学生や若者、ひとり親家庭・多子世帯家庭など)にお届けしています。寄附者名は把握できるものの、住所等の連絡先がわからない仕様のため、SNSを通してお礼のメッセージを発信しています。



●取材・広報掲載等

○2025年1月3日(金)の神戸新聞三田阪神欄に、連載「学び人ごぞりて～関学大神戸三田キャンパス30年」の第2回に、事務局長・大島が取材された記事が掲載されました。

○2025年3月27日(木)の神戸新聞三田阪神欄に、「吉野家が子ども食堂などに牛丼を無料提供 食事の勉強や副菜作りなどの交流にも一役」の内容で、当法人が(株)吉野家と連携して取り組む事業が紙面に掲載されました。

●他団体との連携・協力

- | | | | |
|-----------------------------------|----------------|-----------------------|--------------------------|
| -車瀬橋商店街 | -三田市商工会 | -ひょうご市民活動協議会 | -三田地区県民交流広場「じばやん倶楽部」運営委員 |
| -ひょうご子育てコミュニティ | -兵庫子ども食堂ネットワーク | | |
| -三田小学校コミュニティスクール運営協議会 運営委員【大島】 | | | |
| -コープともしびボランティア振興財団 運営委員【大島】 | | -三田市地域福祉審議会 委員【大島】 | |
| -(公財)非営利組織評価センター グッドガバナンス評価委員【大島】 | | -兵庫県14期県民生活審議会 委員【本田】 | |

当法人の各種情報発信媒体

メインホームページ https://batotsunagari.net/ 	多言語情報サイト「つながり」 https://tsunagari-fr.net/ 
法人Facebook https://www.facebook.com/batotsunagari/ 	北神日本語教室Facebook https://www.facebook.com/hokushinnihongokyoushitsu/ 
法人Instagram https://www.instagram.com/batunagari/ 	ベトナム語情報Facebook https://www.facebook.com/profile.php?id=100081397306085 
裏六甲子ども支援ネット 公式LINEアカウント LINE ID:@591ufrmv 	いけるで! かーちゃん北神戸PJ 公式LINEアカウント LINE ID:@426hwkry 
青少年なんでもサポート 「きっとチャットKOBE」 https://sites.google.com/batotsunagari.net/kobekitchat/ 	三田まちの寺子屋「まなびあ」 Facebook https://www.facebook.com/sanda.manavia/ 
きっとチャットKOBE Instagram https://www.instagram.com/kitchatkobe/ 	北神まなびあFacebook https://www.facebook.com/hokushin.manavia 
北神つながりプロジェクト https://sites.google.com/batotsunagari.net/hokushin-tsunagari/ 	ほっこり縁側ひろば https://sites.google.com/batotsunagari.net/engawa-hiroba/ 

管 理 部 門

運営全般

①会員の状況

正会員： 期初から2名増で24名
 賛助会員： 期初から2名増で22名
 今後、プロジェクトに関わりある方に賛助会員となってもらよう働きかけていきます。

②寄付の状況

会員やプロジェクトに参加しているボランティアさん、コミュニティパントリー利用団体からの寄付、地域住民の方などを含む延べ76人からご寄付をいただきました。大切に使っていきます。

③会議の状況

【通常総会】 2024年10月20日 / 三田ほんまち交流館「縁」
 【理事会】 2024年10月14日、11月20日(理事長選任)、2025年7月29日/いずれもzoom

④職員の体制

事務局長・統括	大島 一晃 (法人理事)	
国際事業部	本田 文代 (週2日)	ドウ・シ・ハ・エン (週3日) 平田 利枝 (週2日)
子ども・若者支援部	島津 恵美 (週5日)	
	【食料配布】 *2025年3月まで	和田あさみ (週1日) 原山 美樹 (週2日) 塗田 祐子 (週2日)
	*2025年4月から	本田 文代 (週2日)
	【若者SNS】 *2025年3月まで	足達 龍彦 (週1日) *主に在宅
	*2025年4月から	池辺 寿江 (週1日) *主に在宅